

## 「駆けつけ警護」を解説

福井 東京新聞論説委員が講演



「戦後最初の一発が撃たれる可能性がある」と語る半田滋論説委員=福井市のアオッサで

福井市のアオッサで二日間に開かれた南スードンでの「駆けつけ警護」に反対する集会は、県内の平和団体でつくる「戦争する国つくり反対! 福井総がかりアクション」が、憲法公布七十

年を機に企画した。

東京新聞（中日新聞東京

本社）の半田滋論説委員が「日本は戦争をするのか」と題して講演。南スードンでは日本人の多くが脱出して駆けつけ警護の必要性が薄まっているものの「安倍

首相からすると、必要性を訴えた以上、安保法制に基づく活動をやらないわけには、自衛隊がP3C哨戒機二機で警戒活動の中心を担っている点に触れ、「すぐ隣に基地を置く米国の対テロ戦争を側面から支える意味を持つている」と解説した。

集会では「戦後日本が保持してきた平和国家としてのレガシー（遺産）が根底から覆る」などと記したアピール文を読み上げ、「ファンバロー」を三唱した。

（中崎裕）

はいかなくなっている」と指摘した。

現地の政情悪化で国連の

○）部隊が攻撃対象になる懸念が強まっており「戦後最初の一発が撃たれる可能性がある」と話した。

## 「駆けつけ警護」 300人が反対訴え

福井で集会

南スーダンで活動する自衛隊に付与される見通しの「駆けつけ警護」に反対する集会が三日、福井市のアオツサで開かれ、三百人ほどが集まつた。

県内で平和運動に取り組む三十ほどの団体が合同で企画。代表の屋敷紘美さん（七二）は「憲法公布から七年、守り育ててきた平和と民主主義が根底から覆される可能性が大きくなっている。戦争への道をどのように阻止するか。この日を一つの大好きな機会と捉えて」と語り、野党共闘による自民政権への対抗を呼び掛けた。

集会後にはJR福井駅東口の広場に、六十人がプラ

カードを掲げて立つた。教員OBらが「教える子を再び

戦争に送つてはならない」「自衛隊に入る子もいるが、外国に行つて戦闘に巻き込まれることを思つて入つているわけではない」と訴えた。

新日本婦人の会県本部の会員



集会後に街頭で駆けつけ警護反対を訴える人たち=福井市のJR福井駅東口で

た。（中崎裕）

「女のレッドアクション」も福井駅西口であつた。三十人ほどが横断幕を掲げながら「戦争したがる政府はいらない」「憲法を守ろう」と声を上げて行進し

てアピールする「レッドカード」にちなんだ赤い服を着てアピールする

が、外国に行つて戦闘に巻き込まれることを思つて入つているわけではない」と訴えた。